



向陵広場

発行号 第135号

発行日 令和6年3月15日(金)

発行元 向陵編集校友会

責任者 伊藤有司 (県商10回卒)

「第4回世界弓道大会」優勝“に貢献”

日本チームは3連覇を達成した。久野さんは、予選から決勝まで24射全て皆中し優勝に貢献した。

久野弥花 県商65回卒

平成28年3月



中日新聞 朝刊
令和6年2月27日



大会に向けて練習に励む日本代表の久野研太さんと弥花さん＝愛知県豊田市で

弓道夫婦 世界一射抜け

29日に名古屋市南区の日本ガイシホールで開かれる第4回世界弓道大会に、3連覇を目指す日本代表チームの一員として、愛知県豊田市の夫婦が出場する。県企業庁水道部で技師として働く久野研太さん(36)と妻の弥花さん(26)。長男(2)の育児で忙しい中でも「日本の文化としての弓道。優勝という責任を果たしたい」と意気込む。(多聞尚樹)

優勝の賞状、メダル

豊田在住 育児と練習 支え合い両立

世界弓道大会 4年に1度開かれ、今回は25の国と地域から計36チーム約180人が出場。男女の区別なく、3人1組のチームで戦う。予選は1人8射で、上位16チームが決勝トーナメントに進む。2010年の第1回大会はフランスが優勝した。当日は午前9時15分に開会式があり、同10時半に予選が始まる。観覧無料。

昨年12月9日、東京・明治神宮であった日本代表選考会。地区予選を勝ち上がった35人が成績を競った。「いつも通り、無心で臨んだ」という弥花さんは参加者で唯一、全20本の矢が30射先の的を射抜いた。研太さんも18本を的中させ、夫婦で代表の座をつかんだ。2人とも中学で競技に出合った。豊田市出身の研太さんは豊田西高から東北大工学部に進学した後も練習を重ねてきた。

同県豊川市で生まれ育った弥花さんは、選手として華やかな経歴を持つ。豊橋商業高で高校総体を制覇すると、愛知大時代は県代表として団体優勝を飾った。県代表合宿などで知り合った2人は2021年に結婚。翌年、長男が誕生した。仕事や育児で多忙な中、自宅敷地に設けた弓道の練習場が競技力の支えだ。毎舞台で弓を引く。

朝、研太さんは夜明けとともに稽古に励み、6時台に出勤する。「基本、子育てで疲れて昼間は練習できない」という弥花さんは、息子を寝かしつけた夜、帰宅した夫との向かう。

学生時代に比べ練習量は激減したが、不安はない。弥花さんは「普通に引けば当たると思っているので」ときっぱり。「練習で当たらない日は、きょうはそういう日ってすぐ切り上げちゃう」と笑う。

研太さんは、妻のそんなメンタルの強さを尊敬する。「普通の人は負の思考に引っ張られがちだが、それが無い。前向きだし、やるべきことに集中している」。弥花さんも「自分で決めた練習や目標をきっちりこなす。そういう真摯な姿勢は自分にないので、頑張らうって気持ちになる」と夫から刺激を受ける。

夫婦として支え合い、選手として高め合ってきた二人。29日、世界一を決める舞台で弓を引く。